

city @ life

都市のしくみと暮らし

no.82

winter

2006



特集

エリア・スタディ・シリーズ
「ロハス」時代の、「素顔のまま」でまちづくり



表紙—山形県金山町、小学校の下校時間(関連記事p14)
裏表紙—秋田県仙北市、西木町「泰山堂」のりんご畑
(関連記事p26)
photo:秋山由樹

特集

エリア・スタディ・シリーズ
「ロハス」時代の、「素顔のまま」でまちづくり

contents

新潟県村上市 | 市民、商店、行政が一体となった活動で、
町への愛着と誇りを育む 2

風土's foods | 村上の「鮭」と「酒」のマリアージュを堪能する

山形県金山町 | 「街並みづくり100年運動」で
林業の振興と新たな観光の姿を打ち出す 14

風土's foods | 金山といえばラーメン!?

秋田県仙北市 | 今あるものをそのまま活かす観光で、
スローライフなまちづくり 26

風土's foods | 秋田、地ものを喰らう

エッセイ | 「秋田」には海がない | 角館・西木村調査の10年を振り返って | 秋山 綾 38

back number・information | 40

「素顔のまま」でまちづくり 「エリア・スタディ・シリーズ」 「ロハス」時代の

特集

少子高齢化の人口減少時代、地域を活性化させるためには、定住人口の増加よりも交流人口の増加がポイントになることは、前回(『city&life』80号)のエリア・スタディ・シリーズでも語られてきた。その一つが、観光客の誘致だ。ただし、従来型の大型リゾート施設やアミューズメントスポット建設などによる観光地の創出は、もはや求められてはいない。スローライフ、ロハスが取りざたされる中、いかに地域の魅力、町の人々の魅力を外部からの来訪者に感じてもらい、「また来たい」と思ってもらえるかが、21世紀型の「観光」のあり方だろう。そんな「素顔のまま」のまちづくりで、魅力的な「暮らし」と「観光」の両立を目指す町を訪ね、町の多面的な魅力を探る。

photo: 秋山由樹「山形県金山町。大堰で鯉にエサをあげる」(関連記事:p14)